

小学校算数A (主として「知識」に関する問題)

平成30年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。四則計算、単位量当たりの大きさ、図形の性質、割合、グラフの読み取りなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.1ポイント下回っています

《平均正答率(%)》

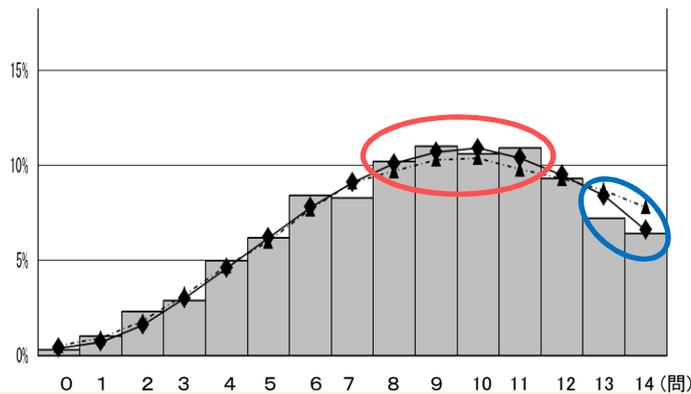
	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数A	62.4	64.0	63.5	-1.1

誤答の様子は…

分布の様子は…

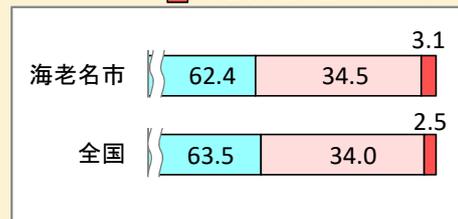
《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は3.1%でした。

全国と比較すると
正答数が8問~11問の児童が多く
13問以上の児童が少ないことが
傾向としてわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の児童の割合は
34.4%でした。(全国は33.4%)

* 正答率80%以上(12~14問)の児童の割合は
22.9%でした。(全国は24.5%)

領域別の正答率

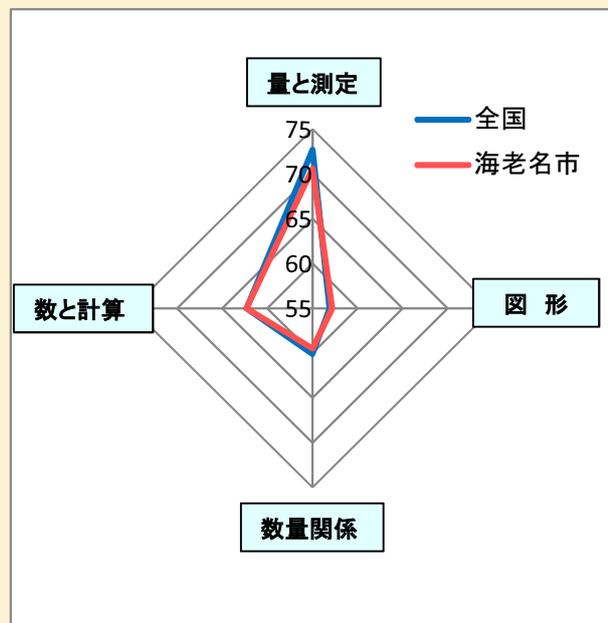
2領域において全国と比較して
やや下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	62.3	62.3	0.0
量と測定	70.6	72.7	-2.1
図形	57.2	56.9	0.3
数量関係	59.5	60.1	-0.6

* 「量と測定」については、2.1ポイント下回っていました。

* 「数と計算」「図形」については、全国と同程度でした。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ。(+4.2)
	○ 数量の関係を数直線に表す。(+1.6)
	○ 面積がそろっていて、人数が異なる場面の混み具合を比べる。(+1.5)

全国を下回った設問	○ 分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める。(−5.4)
	○ 百分率を求める。(−5.1)
	○ 「 $12 \div 0.8$ 」の式で求められる問題を選ぶ。(−3.4)

算数Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

「 $12 \div 0.8$ 」の式で求められる問題を選ぶ設問

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。(全国との比較−3.4)

1	1mの重さが12kgの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8mの重さは何kgですか。	3	赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。
2	0.8Lで12㎡ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lでは、板を何㎡ぬることができますか。	4	長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていくきます。0.8mのリボンは何本できますか。

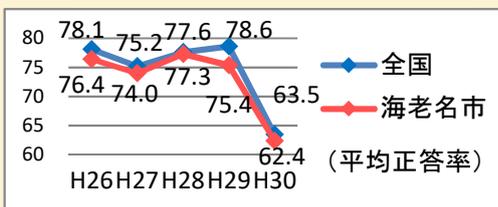
正答 2, 4

☆算数Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が8～11問の児童が多く、13問以上の児童が少ない傾向があることや平均正答率が全国を大きく上回った設問と下回った設問があることから、児童の実態を的確にとらえながら基礎的な力の定着を図るための指導の工夫が求められる。
- ◆ 「図形」の領域については、全国と比べて平均正答率が高く、特に直径の長さと円周の長さの関係について理解している児童が多い。
- ◆ 無解答率については、これまでと同様に課題であり、国語と同様に粘り強く問題に取り組む力を身につける必要がある。

これまでとの比較



- ◆ 全国を下回っているものの、平成29年度よりも全国との差は小さくなっている。
- ◆ これまでと比べ、全国・市ともに平均正答率が大幅に下がっている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「計算の意味を理解する」ために
 - 問題場面、図、式が結びつくように、学習活動や問いかけを工夫して指導する。
 - 計算の意味を記述するような問題に取り組むことにより、数学的な思考力を高めるように指導する。